

# 整体输入域的有效等价类测试用例

输入			预期输出	备注
yeaar	month	day		
1925	6	15	1925-6-16	普通日期
1925	12	31	1926-1-1	年末日期
1925	7	31	1925-8-1	每月 31 天的月末
1925	6	30	1925-7-1	每月 30 天的月末
1904	2	29	1904-3-1	闰年 2 月末
1900	2	28	1900-3-1	非闰年 2 月末

整体输入域的等价划分，当我们从业务的角度分析时，等价类或许很多很复杂，但是如果我们逐渐的分类讨论或许会有更清晰的认识，从而减少等价划分不合理导致的冗余和测试漏洞：

1. 系统可接受的日期
  - a) 月中日期 (1800 – 2050 年 \* 1 – 12 月) Dt1={日期|1800 年到 2050 年间的所有普通日期}
  - b) 年末日期 (1800 – 2050 年 \* 12 月 31 日) Dt22={日期|1800 年到 2050 年间的每年 12 月 31 日}
  - c) 月末日期
    - i. 每月三十天 Dt211={日期|1800 年到 2050 年间的每年中的 1、3、5、7、8、10 月 31 日}
    - ii. 每月三十一天 (除了 12 月) Dt212={日期|1800 年到 2050 年间的每年中的 4、6、9、11 月 30 日}
    - iii. 二月
      1. 闰年 Dt2131={日期|1800 年到 2050 年间的闰年的 2 月 29 日}
      2. 平年 Dt2132={日期|1800 年到 2050 年间的非闰年的 2 月 28 日}
2. 系统不接受的日期
  - a) 小于 1800 年 1 月 1 日 VDt1={日期|1800 年 1 月 1 日以前的所有日期}
  - b) 大于 2050 年 12 月 31 日 VDt2={日期|2050 年 12 月 31 日以后的所有日期}